



園長だより

令和6年11月4日発行
ありんこ親子保育園
園長 中嶋 悅子

先日は、運動会にご参加くださいまして、ありがとうございます。子どもたちの成長が見られた感動的な運動会でしたね。たくさんの方から、「子どもたちの頑張る姿に涙した」「感動しました！」というお声をいただきました。温かい拍手と声援のご協力をいただきまして、職員一同、心より感謝しております。ありがとうございました。そして、無事に終わってホッとしています。

運動会が終わったばかりですが、今月も遠足や発表会に向けての準備など、楽しみがたくさん続きますね。これから季節は、自然環境保育認証園らしく、自然の中で思いっきり活動していきたいと思います。

さて、今月のテーマは「損して得する」です。一見「損」と思えるようなことが、長い目で見ると心の成長につながる。そんな子どもたちの日常を見ていると、この言葉の意味がしみじみと感じられます。

「失敗」から生まれる力

園生活の中で、子どもたちは毎日たくさんの挑戦をしています。靴を自分で履こうとして左右を間違えたり、給食の配膳で少しこぼしてしまったり。お友だちと意見が合わずに泣いてしまうこともあります。大人から見ると「失敗」や「トラブル」と思える出来事も、子どもにとっては大切な学びのチャンスです。うまくいかない経験を通して、「どうしたら次はできるかな？」「相手はどんな気持ちだったかな？」と考える力が少しづつ育ちます。

時間をかけて見守ることは、時に“非効率”で、“損”に見えるかもしれません。でも、その小さな積み重ねが、やがて子どもたちの「生きる力」や「自信」につながっていくのです。

「ゆづる」ことで広がる心

子ども同士の関わりの中で、よくあるのが「貸して」「いやだ」というやりとりです。大人はつい、「順番こにしようね」と解決を促したくなりますが、時には見守ることも大切です。

自分の思いを伝える、相手の表情を感じ取る、そして「じゃあいいよ」と一步譲る——その中に、人としての豊かな感情の学びがあります。譲ることは負けることではなく、相手を思いやる心の強さです。



「損して得する」という言葉は、この“譲る勇気”にも通じます。目先の勝ち負けではなく、相手と心を通わせる経験が、子どもたちの中に信頼や優しさを育てていくのです。

「手間をかける」という愛情

忙しい日々の中で、私たち大人はつい「早く」「効率よく」を優先してしまいがちです。けれども、子どもたちにとっては、大人が“手をかける時間”こそが何よりの愛情です。

ボタンを自分で留めようとして時間がかかるとき、つい手を出したくなります。でも「できたね！」と一緒に喜べた瞬間、子どもの顔には自信があふれます。

少し手間がかかるっても、「待つ」「見守る」「励ます」——それが子どもの心を満たし、安心して挑戦できる力を育てるのだと思います。

◆ 「損得」より「心の実り」を

現代社会では、効率や成果が重視される場面が多くあります。けれども、保育の現場で日々感じるのは、「心を育てる」ことの大切さです。目に見える結果よりも、時間をかけて育つ心の成長にこそ、本当の価値があります。損をしているように見えても、実は人とのつながりや信頼、そして自分を信じる力といった“見えない宝物”を得ているのだと思います。

子どもたちがそうした「心の豊かさ」を育んでいけるように、私たち大人も日々の中で小さな“損して得する”選択を大切にしていきたいですね。

◆ おわりに

こんな言葉があります。

「春にたくさんの種をまいて、手間もお金もかかるけれど、すぐには収穫できない。でも秋には実り豊かな収穫がある」

「ウサギは速く走っても油断して休んでしまい、カメはコツコツと進み続けて勝つ。カメは、最初は遅くて不利（損）でも、最後には勝利（得）を手にする」

「凝った刺繡をする時、糸が絡まつたら一度ほどいてやり直す。手間はかかるけれど、その方がきれいに仕上がる」

これらは、子育てにも通じる言葉です。一時的な「損」が、最終的な「得」になるという意味です。子育ては損得だけではありませんが、小さな“損”が大きな“得”を呼び込むことはたくさんあります。

小さな子どもたちは、まだ損得勘定では行動しません。ただ、就学前頃になるとある程度は損得を理解できるようになります。その時に、周りの大人が「損だ、得だ」と話していると、それを近くで聞いている子どもはその大人の価値観が植え付けられてしまうかもしれません。

行動する理由が、家族やお友達を喜ばせることが目的ならば、例えそれが“損”を伴うことであっても、周りから喜びが返ってきます。長い目で見たら、その方が“得”になるということです。

ある日、○○ちゃんが折り紙を折っていました。「これママにプレゼントするの」と笑顔で私に話してくれました。そんな姿を見ていると、「人に何かを分けてあげたい」「喜ばせたい」という温かい気持ちが自然に育っているのを感じます。子どもたちは、大人の背中を見て育ちます。私たちも「少し手を貸す」「少し譲る」「少し我慢する」——そんな小さな“損”を通して、子どもたちに本当の「得=徳」を伝えていけたらと思います。

秋の深まりとともに、子どもたちの心にも優しい実りがたくさん訪れますように。

